

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成23年1月6日(2011.1.6)

【公開番号】特開2008-168124(P2008-168124A)

【公開日】平成20年7月24日(2008.7.24)

【年通号数】公開・登録公報2008-029

【出願番号】特願2008-384(P2008-384)

【国際特許分類】

A 4 7 C 1/025 (2006.01)

B 6 0 N 2/20 (2006.01)

B 6 0 N 2/22 (2006.01)

B 6 0 N 2/30 (2006.01)

【F I】

A 4 7 C 1/025

B 6 0 N 2/20

B 6 0 N 2/22

B 6 0 N 2/30

【手続補正書】

【提出日】平成22年11月16日(2010.11.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

一方側が背もたれ(16)の背もたれ構造体(20)に対して接続されるとともに他方側が座部(15)の支持構造体(21)に対して接続される取り付け具(5)と、前記背もたれ(16)の傾きを第1角度範囲(I)内の少なくとも2つの使用位置間で調整するために取り付け具(5)を作動させる第1作動部材(33)と、前記第1角度範囲(I)内の使用位置のうちの1つから第2角度範囲(II)内の回動フリー位置(IV)へと背もたれ(16)を自由に回動させるために取り付け具(5)を作動させて前記取り付け具(5)のロックを解除する第2作動部材(63)と、前記取り付け具(5)上に回動自在に装着されるとともにロック解除用の長手方向調整部材(55)を作動させて前記背もたれ(16)が前記第1角度範囲(I)内に位置されている限り長手方向調整部材(55)によってその位置に保持されるリング部材(12)とを有する車両座席用取り付け機構(1)において、

前記取り付け具(5)が作動されると、前記第2作動部材(63)が背もたれ(16)をリング部材(12)に対して結合して、背もたれ(16)は、それが自由に回動されることから、前記第2角度範囲(II)に達する際にリング部材(12)を駆動させて、リング部材(12)が長手方向調整部材(55)を作動させてロック解除するようになっていることを特徴とする車両座席用取り付け機構(1)。

【請求項 2】

前記背もたれ(16)およびリング部材(12)が、前記取り付け具(5)がロックされ且つ取り付け具(5)が第1作動部材(33)によって作動されると、前記第1角度範囲(I)内および第2角度範囲(II)内での背もたれ(16)のその後の回動中に分離されるように構成されていることを特徴とする請求項1記載の車両座席用取り付け機構(1)。

【請求項 3】

前記第 1 作動部材 (3 3) が第 1 ボーデンケーブル (3 1) によって取り付け具 (5) を作動させ、及び / 又は、第 2 作動部材 (6 3) が第 2 ボーデンケーブル (4 2) によって取り付け具 (5) を作動させるようになっていて、ことを特徴とする請求項 1 記載の車両座席用取り付け機構 (1)。

【請求項 4】

前記第 2 ボーデンケーブル (4 2) が、前記取り付け具 (5) が作動されると前記取り付け具 (5) のロックを解除して前記背もたれ (1 6) をリング部材 (1 2) に対して結合するために、前記背もたれ (1 6) 上に移動自在に装着され且つ背もたれ構造体 (2 0) のスロット状ガイド (4 6) 内に装着されるピン (4 4) をリング部材 (1 2) のレセプタクル (1 2 a) 内へ挿入するように構成されていることを特徴とする請求項 3 記載の車両座席用取り付け機構 (1)。

【請求項 5】

前記取り付け具 (5) のロックを解除するために、前記第 2 作動部材 (6 3) が、直接に或いは第 2 ボーデンケーブル (4 2) によって、前記取り付け具 (5) に係合するシャフト (7) に対して作用し、あるいは、シャフト (7) 上に好ましくは回動自在に載置固定される回動自在なアンロックレバー (2 5) に対して作用するように構成されていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれか一つに記載の車両座席用取り付け機構 (1)。

【請求項 6】

前記第 2 ボーデンケーブル (4 2) のコアおよびスリーブが、一方ではピン (4 4) に対して締結され及び / 又はピン (4 4) 上に支持されるとともに、他方ではアンロックレバー (2 5) に対して締結され及び / 又はアンロックレバー (2 5) 上に支持されていることを特徴とする請求項 4 または請求項 5 記載の車両座席用取り付け機構 (1)。

【請求項 7】

前記ピン (4 4) が、少なくとも 1 つの径方向成分を有する方向でリング部材 (1 2) に対して移動することができ、及び / 又は、レセプタクル (1 2 a) 内に挿入されるピン (4 4) が、前記背もたれ (1 6) が第 2 角度範囲 (I I) に達するときに前記リング部材 (1 2) と接触するとともに、前記レセプタクル (1 2 a) の壁と接触するように構成されていることを特徴とする請求項 4 または請求項 6 記載の車両座席用取り付け機構 (1)。

【請求項 8】

前記リング部材 (1 2) が、前記第 3 ボーデンケーブル (5 3) によって長手方向調整部材 (5 5) を作動させ、前記第 3 ボーデンケーブル (5 3) が、前記リング部材 (1 2) の引掛け部 (1 2 b) に対して締結され、または引っ掛けられていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 7 のいずれか一つに記載の車両座席用取り付け機構 (1)。

【請求項 9】

前記背もたれ (1 6) に対して結合されるリング部材 (1 2) が、前記回動フリー位置 (I V) に達するとストッパ (1 2 b) により前記座部 (1 5) の荷重支持構造体 (2 1) に対して接続される相手側のストッパ (1 3 a) と接触し、前記リング部材 (1 2) の回動が制限され、前記回動フリー位置 (I V) が画定されるように構成されていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 8 のいずれかに記載の車両座席用取り付け機構 (1)。

【請求項 10】

前記取り付け具 (5) が、前記背もたれ構造体 (2 0) に対して接続される第 1 リング部材 (1 1) により軸方向に一緒に保持され、前記長手方向調整部材 (5 5) を作動させるためのリング部材 (1 2) が、前記第 1 リング部材 (1 1) 上に装着される第 2 リング部材 (1 2) であり、前記座部 (1 5) の荷重支持構造体 (2 1) に対して接続される第 3 リング部材 (1 3) が設けられていることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 9 のいずれか一つに記載の車両座席用取り付け機構 (1)。

【請求項 11】

前記第２リング部材（１２）の引掛け部（１２ｂ）がストッパとして構成され、相手側のストッパ（１３ａ）が第３リング部材（１３）上に形成されていることを特徴とする請求項８乃至請求項１０のいずれか一つに記載の車両座席用取り付け機構（１）。

【請求項１２】

請求項１乃至請求項１１のいずれか一つに記載の車両座席用取り付け機構（１）を有していることを特徴とする車両座席（３）。